

3/28
毎日

広がるコロナ変異株

なぜ検査が増えないのか

新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中、変異株が広がりを見せている。

変異株の累計感染者数は空港検疫を含め600人を超えた。1週間で160人以上増えている。

感染者は26都道府県に及び、9割は英国株だ。感染力が強いとされ、子どもにも感染しやすいとの指摘がある。

既に市中感染に至っている可能性もある。専門家は変異株が第4波を招くと警鐘を鳴らす。従来とは異なる対策が求められる。

しかし、検査体制が不十分なため、実態把握に不可欠なデータが得られないのが実情だ。

変異株は、陽性の検体を再度P

充した。検査率は6割を超え、ゲノム解析も自前で行う。

政府は緊急事態宣言解除に当たって検査率を4割に上げ、対策を強化することを目標に掲げた。

だが、号令をかけるだけでは、

自治体の取り組みは進まない。

感染症研究所などでゲノム（全遺伝情報）解析し、確定させる。しかし煩雑な手続きがネックとなり、自治体によっては一部しか再検査に回していない。確定までに数日かかるため、初動が遅れる恐れもある。

東京都は新規感染者数が全国最多なのに、変異株の検査率は5~10%にとどまり、確定数も少ない。

大量のPCR検査を民間検査機関に頼ってきたが、新たな事態への対応が遅れている。協力を得て拡充を急ぐべきだ。

神戸市は、積極的な検査で注目を集めている。国からの指示を得られていないのが実情だ。

新たな局面のたびに対応が後手に回るという、これまでの失敗を繰り返してはならない。